

令和3年度 常葉大学・常葉大学短期大学部
第5回FD・SD研修会（全学共通研修会）報告

日 時	令和3年11月17日（水） 15時10分～16時30分
場 所	常葉大学静岡草薙キャンパス A201 教室 静岡瀬名キャンパス 大会議室 静岡水落キャンパス 412 教室 浜松キャンパス トコハホール オンライン（Zoom）配信を併用
内 容	研究推進講演「立木研究室のBCM（Business Continuity Management）」
講 師	同志社大学社会学部社会学科 教授 立木 茂雄 様
出席者数	常葉大学静岡草薙キャンパス 205 人 静岡瀬名キャンパス 23 人 静岡水落キャンパス 64 人 浜松キャンパス 131 人 合 計 423 人

令和3年度第5回FD・SD研修会（全学共通研修会）を開催した。研究推進講演として同志社大学社会学部社会学科の立木茂雄教授にご講演いただいた。立木教授は、研究者人生を振り返り、査読論文数の年次推移と比較しながらこれまで研究者としてご経験されたことをお話された。立木教授の人生グラフでは、何回かアップダウンがある。この主観的な人生グラフと査読論文数の推移が同じ傾向を示している。心の充実度が高いときは査読論文数も多い。心の充実度が低い時期は、査読論文数も少なかった。何回か心の充実度が低い時期をご経験されていたが、その際には重要他者との出会いによって新たな機会を得られ、弱い紐帯の強さを発揮できたとのことであった。また、アップダウンのご経験から、研究者を続けていく上で大切なキーワードとして「越境」「連結」「協働」「参画」を挙げられ、他者とのつながりによって研究が発展していくとお話であった。

最後に研究者にとって重要なこととして三つのことを挙げられた。まず一つ目は研究姿勢である。アカデミックスキルの活用や「出羽守」研究はしないこと、何よりこの研究は面白いかという研究姿勢。二つ目は大型プロジェクトへの参画である。社会的大儀・新規性・独自性が重要。三つめは若い人を育てる姿勢である。エライ先生にならずに変われることが大切。立木教授からは、研究の形を変えても生き残ることが大切であり、他の領域にも飛び込んでいくことでイノベーティブなことができるなど、これまでの研究者人生から得られたことについてご講演いただいた。